



子供達の本気を引き出す、オーセンティックな課題設定と工夫とは？

中学校英語ウィンターセミナーにはたくさんの先生方にご参加頂き、ありがとうございました。報告第1弾です。英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況等が明確だと生徒達にはどのような変容があるのか、英語科の取組を伊野中学校 前田知子先生がお話してくださいました。その内容とスピーチ当日の様子などをご紹介します。

ウィンターセミナーより

教材について：SUNSHINE ENGLISH COURSE1 PROGRAM7 The Wonderful Ocean

付けたい力：話すこと〔やり取り〕イ〔中学校学習指導要領（平成29年告示）〕

単元ゴール：『いの町のマスコットキャラクターを作ろう』



当初は、理想のAIロボットを発表させるつもりでしたが、いの町にはマスコットキャラがないこともあり、よりオーセンティックな方が生徒達のやる気を引き出せると考え、単元ゴールを変更しました。

さらに、本気を引き出すため「良いマスコットができれば、いの町に提案するよ！」と伝え生徒達のやる気に火を付けました。そして、この言葉を聞いて、生徒からは表現したいことがあふれ出てきました。

言語活動では、相手を変えて何度も繰り返し発表と修正を行いました。その際、単元をスモールステップで設定することで、生徒が達成感を感じながら学べるよう工夫しました。

生徒達は、自分のアイデアをどうやって英語にしようかと教科書や辞書を参考にしたり、指導者やALTにたずねたりして、大変意欲的に取り組んでいました。その姿から「オーセンティックなゴールを設定する活動を行う」ことに、私たち教員も非常な手応えを感じました。

当日は、話す方も聞く方もワクワクしている様子が伝わってきました。本番直前まで内容を推敲したり、スピーチの途中に即興のやり取りを入れたりする姿が見られました。

来年度「キャラクター紹介」を行うならば、「相手意識を明確に持ったスピーチ」ができるようにさせたいです。相手が変われば伝える内容も違ってくるので、だれに、どのようないの町の魅力を発信するのか、今年以上に明確にした上で、スピーチをさせることが必要だと考えています。

スピーチ当日の様子



当日は（一緒に何度も練習し修正を加えていても）互いに何を言うのか興味津々の生徒の姿がありました。

話し手は、聞き手に伝わりにくいと判断すれば黒板を使って話したり、スクリーンまで近づいて行って指し示したり、スピーチの中にやり取りの場面を意図的に入れたりして、発表することを楽しんでいました。

聞き手は、顔をしっかりと上げて、質問されたことに頷いたり答えたりして、話し手が気持ちよく発表できる雰囲気をつくっていました。また、言いよんでいる話し手を静かに待つ姿も見られ、温かい雰囲気が感じられるとともに、みんなでスピーチ大会を楽しんでいる様子にも感動しました。

印象的だったのは、自分がスピーチを行う直前に挙手し『先生、ちょっと変えてもいいですか？』とたずねる生徒がいたことです。完成した英文を暗記して話すのではなく、友達のスピーチを聞くことでさらに刺激を受け、発表会当日も修正を加えて話そうとする姿に、見方・考え方を働かせて学ぶことの大切さを改めて感じました。

生徒の実態に応じて「自分事となり、本気にさせる場面設定」を行うこと、それを生徒ときちんと共有し、生徒に自分の成長を感じさせながら単元を通して資質・能力を育成する丁寧な指導に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する指導のヒントを頂きました。



★★★いの町役場 本庁舎で提案された代表生徒の発表内容★★★



池田町長をはじめ、たくさんの町関係者の方々に聞いていただきました。

Hello. My name is ○○.
Look at this picture.
His name is *Kawabie*.
He is from Mt. *Ishizuchi*.
He lives under the *Niyodogawa* Bridge.
He likes CO₂.
He is kind to the earth.
He doesn't like the cold.
He loves *Ino* nature.
Thank you for listening.

Hello. My name is ○○.
Look at this picture.
He is *washi sennin*.
He is 84 years old.
He likes *Ino* Town and *washi*.
He lives in *Ino*.
He is from *Yoshii Genta's* house.
He can make *washi* very well.
He can teach you how to make *washi*.
Thank you.

Hello. My name is ○○.
Look at this picture.
This is *Dai kun*. He is a god.
He is very healthy because his food is from *Ino* Town every day.
He wears a tomato hat.
His clothes are made from *washi*.
He lives in *Sugimoto* Shrine.
He protects *Ino* Town.
He likes smile.
He can make people smile.
He doesn't like everyone's sad face.
Thank you.



1年生の多くが10文以上で、様々な動詞や形容詞、既習表現を用いて自分の考えを発表しようとしていました。また、ただ事実を羅列したり、思いついたまま話したりするのはなく、テーマに沿って、何を、どの順で話すことが聞き手により伝わるのかを考え、整理して発表していました。

言語活動においては、まずは生徒に話したい内容がたくさんあること。それを英語で表現するために「情報の整理→考えの形成→表現する→友達などのフィードバックを基にした推敲」を繰り返すことが重要です。言語活動を行う場面設定を工夫するとともに、活動を通して資質・能力を育成することを目指した伊野中学校の指導を参考にしたいですね。

正確性は簡単に育成できません。生徒は間違いながら混乱しながら英語を身に付けていきます。しかし、間違っただけで混乱したままでは学びにつながりません。「話すこと」の指導においても内容面だけでなく、単元や単位時間の中で言語面での中間指導を意図的に行い、生徒の気づきを促しましょう。

★★★生徒の感想より★★★

- ジェスチャーやいろんなことに挑戦できた。人前で話すことに自信が持てました。
- 一人ひとり、個性があって面白かったです。キャラクターの素材となるものは同じだけど、完成したものは全員違って、キャラクターも発表も良かったです。
- こんなに長い文をプレゼンするのは初めてだったので心臓が飛び出しそうでした。けれど、キャラクターを考えるのは楽しかったです。
- メモを見ず、相手に伝える気持ちで一人ひとりの目を見て、ゆっくりはっきり発表しました。
- いの町の良さをたくさん詰め込んだマスコットキャラクターで、みんなが「いいね」「かわいいね」と言ってくれたので、自信をもって発表しようと思いました。私がたくさん練習したジェスチャーをちゃんと見て、そして、ほめてもらえてすごくうれしかったです。

